

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.31

日時	2013年9月16日
行脚先	青山合戦場
住所	兵庫県姫路市青山（播磨国）
行事名	

特徴

永禄12年(1569年)、西播磨守護代 赤松政秀と姫路城主 黒田氏との間に起きた「青山・土器山の戦い」の一舞台となり、官兵衛が初めて戦の指揮を取ったとして有名な場所です。
現在は、住宅街の一角に「黒田官兵衛古戦場跡」と記された石碑が佇んでおり、最寄の千石池は「戦国池」と呼ばれ、「青山の戦いで命を落とした人の首が沈んでいる」との言い伝えが残っています。
石碑のそばには、官兵衛が愛し黒田家の家紋に描かれている藤の花が植えられています。

黒田官兵衛との関わり

永禄12年(1569年)8月9日、播州龍野城 赤松下野守政秀は、30余人の兵を率いて姫路の城を攻めんと、青山合戦場より僅か北の龍野街道(古代山陽道)を東へ侵撃してきました。
黒田官兵衛は父職隆のもとを離れ、初めて指揮官として龍野赤松軍を迎え撃ったそうです。
その際構えた陣地は青山合戦場より東の菅生川(現夢前川)近くの土器山(下手野)に布陣しており、悪戦苦闘を重ねました。
陣地よりさらに東には官兵衛が生誕した姫路城があるため、決死の思いで死守したそうです。
官兵衛は不意撃ち、挟み撃ち等、秘策を尽くして敵の軍勢を追い詰め、青山合戦場まで撃退しました。
この戦いで敵の首七十をあげた官兵衛は、奇襲の作戦技もあって有名になったそうです。
「智将 黒田官兵衛」と言われる、その兆しを見せたのがこの青山合戦だったと言われています。

記録

